

## 令和 6 年 9 月臨時記者会見

### 【 説 明 】

#### 〔01\_副市長の選任に関する市議会への提案について〕

**市長** 山本昇副市長が、令和 6 年 10 月 31 日付けで退任されることになりました。それに伴いまして領家経営企画部長を新たに副市長とする人事案をこの 9 月議会の最終日に追加提案します。

山本氏は、私が市長に就任したときから 9 年 4 か月という長きにわたり副市長として支えていただきました。私は生駒市の出身ではありませんので、地元の出身として、また、何と言っても職員や地元の方の信頼が厚いということで、技術的な部分や議会との関係も含めて、私の足りない部分を補完して支えていただき大変感謝しております。

後任の領家部長は、生駒市が全国に先駆けて取り組んでいるプロフェッショナル人材の社会人経験者枠で、大阪府から特に部長級の公募ということで採用となりました。非常に大きなチャレンジでしたが、それにふさわしい素晴らしい方に来ていただいたと思っています。採用となった令和 2 年度は、特にコロナ禍の大変な時代からスタートしましたが、「さきめし生駒」の取組や、「ファーマーズスクール」「まちのえき」、創業、副業、第二創業等を支援する「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」等の取組に今までの経験を活かしていただいて、着実に成果を上げていただきました。また国、県等とネットワークやご自身で海外のプロジェクトやいろいろな勉強会に参加されるなど、非常に人脈も広く、生駒市のこれからの取組をしっかりと支えていただけたと思います。

学研高山第 2 工区や学校体育館のエアコンの設置等、山本副市長が今まできめ細やかに取り組んでいたプロジェクトをこれからもしっかりと形にしていくと同時に、新しい視点を新しい挑戦にもしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

**副市長** この度、10 月 31 日をもちまして、副市長を退任させていただきます。

平成 27 年の 4 月に小紫市長が就任されまして、その年の 6 月から現在まで 9 年 3 ヶ月の長きにわたり副市長としてお世話になりましたが、私がモットーとしておりましたのが、困ったときには市民目線になって考えるということです。市長と職員議員市民のかすがいいになるということを自分自身肝に銘じて今まで進めてきました。

主に取り組んでまいりました、学研高山地区第 2 工区や学研北生駒駅北地区の区画整理事業等が準備組合の設立等や県の都市計画変更が一定進んだことと、今後、生駒市においても AI 等の新しいものに取り組み、今後更なる発展をしていくためには、若い世代へバトンタッチをして、市長とタッグを組んでやっていける方に副市長になっていただきたいということで、この度退任を決意した次第です。

この時期に退任する理由につきましては、令和 5 年度の決算の認定、新規・主要事業の策定、あるいは予算を組んでいく時期ですので、この段階で代わった方が市政がスムーズに運営できるのではないかと思います。決意させていただきました。職員時代を含めて 46 年余り、生駒市の発展に寄与できたことに感謝を申しあげたいと思います。

**領家部長** これまで副市長として 9 年余り、本市職員としては 46 年余りの長きにわたり市政運営に

貢献されてこられた山本副市長に心より敬意を表しますとともに、その重責を引き継ぐということで大変身の引き締まる思いです。

さて私は、令和２年度のプロフェッショナル人材の公募に応募し、採用していただきました。地域活力創生部長として４年、経営企画部長としては５か月余りになります。前職の大阪府では、福祉、医療、健康、商工関連の部署等に就任し、ちょうど関西空港ができる頃にりんくうタウンの開発をしておりました企業局という部署にも長くおりました、経営管理や開発行政の一端を経験させていただきました。

全国的に言えることですが、本市でも人口が減っていくという中で、市民の生活、あるいは市政の持続可能性というものを考えると、これからの２０年３０年というのは、今まで見たこともないようなことや経験したこともないようなことが続々と起こってきて対応していくことになると思います。

本市及び前職の大阪府を通して３７年の公務経験の中で、幅広い分野での経験や知見等を活かして、微力ながら職員とともに市長を補佐して、政策や取組をしっかりと積み上げて、現在の住民だけではなく将来世代の皆さんにも安心して暮らしていただけるような生駒市になるように、また、引き続き住んでよかった、働いてよかったと思ってもらえるようなまちになるよう、少しでも貢献できればと思っています。

就任は議会のご同意を得てからということになりますが、引き続きよろしくお願いします。

## 【 質疑応答 】

**記者** 副市長が辞表願いを出し、市長が受理されたのはいつですか。

**市長** ９月６日です。

**記者** このタイミングで辞任を決意されたのはなぜですか。

**副市長** 副市長は本来２期８年間ぐらいで代わっていくべきだと考えていましたが、慰留もされて現在まで在任させていただきましたが、特に学研高山地区第２工区については、UR から１６０ヘクタールという広大な土地を生駒市が買い上げて事業をスタートしたわけですが、ようやく県の方も都市計画や建設計画の変更等について応じてくれまして、現在地権者との会議の中でも、準備組合を設立するということまでできたといったこと等が大きな要因かなと思っています。

**記者** 退任された後に外郭団体等を含めて市の仕事に携われる予定はありますか。

**副市長** 特にありません。

**市長** 今まで生駒市の重要なプロジェクトに携わっていただいているので、何らかの形で知恵やお力を貸していただきたいとは考えていますが、現時点で具体的なことはありません。

**記者** 新たに副市長に就任されて、経済産業の分野などで人材づくり等重点的に取り組みたいと考えているところはありますか。

**領家部長** 昨年に商工観光ビジョンの改訂をさせていただいて、これからいろいろな事業が動き出すところです。生駒市はご存知のとおりベッドタウンですが北部の製造業の集積というのが年々増えてきています。さらに多くの事業者が今後出てくる予定もあります。また、コロナ禍からスタートした起業支援である経営塾、今は、「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」を展開していますが、こうした取組から起業だけでなく、在宅就労、副業といった多様な就労形態が出てきていますので、こうした産業集積や起業を市民の就労機会につなげ、住むだけではなく働けるまちにしていけるような取組をしっかりとやっていきたいと思っています。

それと、まずは、顔の見える関係を市民や事業者の方と積み上げていくことが重要と考えています。その上で様々な事業や政策を動かしていかないと誰も見向きもしてくれないということになりかねませんので、顔の見えるネットワークをしっかりと作っていくことで、行政が動かなくても自立して産業経済が回っていくと考えていますので、まずはその仕組みをしっかりとやっていきたいと思います。

**記者** 市長として新副市長の就任後に具体的にぜひ期待したいこと、進めてほしいことはありますか。

**市長** 50周年のビジョンでも市長選挙のマニフェストでも言っておりますが、生駒市は、住みやすいまちだけではなくて、働きやすいとか、豊かな暮らしを楽しめるまちということを三本柱にしています。その理念をどう具体化していくかということで、新副市長は、専門分野でもありますし、それは引き続きお力をいただきたいと考えています。また、福祉分野もずっと携わっておられましたので、福祉の分野で地域共生ということで、困っている人を助けるというだけではなくて、いろいろな障がいがある方やいろいろなお困りごとを持っておられる全ての方をしっかりと支援する、それぞれの方に役割があるようなお互いに支え合えるまちづくりをどう作っていくのかというところも担当の特命監と共に進めていただきたいと思います。

また、市民や議会とのより良い関係をつくり、職員のモチベーションとか自主性・創造性を高め、力を発揮してもらえるように、また、新しいことにも挑戦をしていただくとともに、市民や事業者の方と連携して、組織づくりや人づくり、またネットワークづくりというところも土台に据えて、まちづくりのプロジェクトを具体的な形にしていきたいと思います。

(その他の質問)

なし。

(了)